

# アメリカだより

相場 均

僕にとつて一番興味があるのは生活程度の  
ひくいアメリカの田舎でした。そんなこと  
を念頭において、昨年の暮から今年の正月  
にかけて、リオグランデと言うテキサス州  
とメキシコ合衆国の向を流れる河のあたり  
を歩きまわりました。

アメリカの心理学や精神医学の一つの行  
き方は幼児の頃からつきまといつているその  
文化環境、生活環境を調べると、特に全く  
違つた形態の文化環境をくらべてそこから  
鍵を得ようとする立場が盛んで  
す。僕のいるテキサスのとなり  
はニュー・メキシコ州で、こゝに  
は四国位の大さきのナヴァホ・  
アパッチなどのインディアン領  
土が政府の保護のもとに残つて  
いて学者たちはしばしばその調  
査にあたつています。僕が指導  
を受けているメキシコ人の教育  
心理学者サーチエス博士もその  
一人です。

さて僕の年度の旅行にはそれと  
同じような意図がなんとなくひ  
そんでいました。アメリカから

カナダをこえるときはその差はたいしたこ  
とがないのに反して、いつたんメキシコの  
方へ入ると、世界が全くかわります。

泥づくりのかたむきか、つた家々、はだ  
して歩く老人たち、むらがる靴みがきの子  
供、それらは全てうらぶれた詩です。哀調  
をおびたメキシコの音楽が街に流れ、白い  
インディアンに大きな麦わら帽をかぶ  
つた人々は屋間から酒をのんでいます。こ  
れもメキシコ市モントレイ市のような大都  
会になるとずつと近代化されてアメリカそ  
つくりになるのですが僕のみた範圍では非  
常に貧しさを感じました。

カトリックが盛んで修道女たちが幼稚園  
をひらいています。その他心ある人々は教  
育にとつても熱心です。しかし僕の感じた  
結論は、我々は貧しすぎてはいけないと言  
うことでした。この貧しい人々の努力が、  
おしみなくお金をつかつて行くアメリカの  
幼児教育とちがつてなかくのびて行かな  
いのはたしかに悲しいことです。

さあ日本の状態はどうでしょうか。僕は  
その貧しい石造りの教会の中でメキシコイ  
ンディアンたちと一語にひざまづいて心か  
ら日本の将来の発展を祈りつづけたのでし  
た。

☆ ☆ ☆

メキシコの旅からテキサス大学の所在  
地、オースティンへかえると、ふた、び大  
へん多忙になりました。知覚の問題を性格  
に結びつけて研究しているブレイク博士の  
もとで、ひどく難解なゼミナールに出てい  
るからです。知覚が自我のような高度の精  
神機能と深い関係があることは、ゲシタル  
ト学派の説明を待たなくても明らかなこと  
ですが、新しい力学的な考察と、近年に発  
達した数学理論が、知覚の問題の奥に横た  
わつていて高度の精神機能をつかみ出そう  
としていきます。これは、やがて心理学はか  
りでなく精神病理学のためにも何か基礎的  
な理論を生み出すでしょう。

その他サンチエス博士のもとで人種的偏  
見の対象になつていいるニグロ、メキシコ人  
などの社会心理学的分析を行つています。  
これはブレイク博士の研究のように基礎的  
なものもちがつて、むしろ応用的な分野で  
す。テキサスでは、有色人種の子供が白人よ  
りおとつていいるという立証は出来ません。  
私はそのことよりもむしろそのように有色

人種を待遇しなければならぬアメリカ社会の病理に興味を持ち始めています。臨床心理学者が個人の心の病気を治すように、社会心理学者は社会の病気を治すようにつとめなければならぬでしょう。「このニグロの子供たちは白人の映画館にも行けないですよ」と悲しそうに云うカトリックの幼稚園の修道女、バスではうしろの有色人種席にしかおれないで、可愛らしいくりくりした眼を前方にむけているニグロの子供、そうしたことどもは、知覚や性格の分析をやっている科学者としての私でなく、一個の人間としての私の心を限りなく暗いものにするのでした。

最近のニュースはこの大学の前の総長のペインター博士の公式のお客様として、北海道大学の動物学の教授、牧野佐二郎博士が私たちの大学の研究室ですごしていられることです。アメリカの学者達は、あげてこの温厚な牧野博士を尊敬していて、私達日本人はそれを心からほこりに思っています。私の専門領域とは遠からぬその先生と共に、毎日、夕食を共にしながら色々な事を教わります。又、学士院会員で、遺伝学者として有名な、木原均教授も、近くニュー

ヨークから、この大学に来られるとかで、楽しみにして待つています。アメリカでも心理学者が遺伝の問題をとりあげるのには、昔程盛ではありませんが、私は、此の問題は、これから提出されるべきものだと思っています。

向、「キンダーブック」や「幼児の教育」が毎月届くので、有難く思っています。アメリカでも、保育歯科学に對する一般の関心が——勿論日本の数倍も高いにしろ——未だ、満足すべき状態でないで、保育医学研究会の深田英朗、梶原文子の諸氏の報告を紹介して大変な興味を持たれました。


倉橋惣三教授、吉見静江、秋田美子、鈴木とく、山村きよ、大島文義、青柳美智代の諸氏に依る、座談会「幼児問題を語る」は日本の実情がべつ見出来てとても有意義だと云う事でした。特に吉見氏は、私の二年近くも住みついている、このオースティン市で何ヶ月か過されたのでその名前を覚えていた人もあつて、なつかしがつていました。

たゞし、「テキサスはアメリカの中であまり教育が進歩した所でない」と云う御意見には、皆んな、くすぐつたような顔をして

反対していました。

私の友人の保育に關係を持つ医学者や、心理学者は、全て、日本の保育者との連絡を望んでいます。れうけたまわるところに依ると、この大学で一人日本人から学生費支給の留学生を迎えるとの事らしいので、出来得れば、私達の分野から、有意義な人が来られるといふと、願つている次第です。又、私のごく仲の良い、友人も、近く渡日するし、児童の発達学をやつている友人も、「幼児の教育」に出してもらえたらと云つて原稿を書いています。色々な意味で、この国と、日本との橋渡しの彼が少しでも出来ればとても幸です。

近く、新しい仕事にかゝります。その中休みを利用して、ミシシッピ川の河口にある元フランス領の古都市、ニウォルリエンスへ、旅行しに行きます。旅は絶えずほのかな期待と、抒情と、はてしない旅愁をさそつて若い私の魂をゆすぶるのです。

 Texas U.S.A. 相場均